

目 次

1. 広島大学マスタース総会・懇親会のご案内	2
2. 「2024 年度事業」の報告	
(1) 2024 年度の全ての事業・行事が終了しました（一覧表）	3
(2) ちゅーピーカルチャーセンターに2 講師を派遣	4
(3) 2024 年度冬期日本語・日本文化特別研修に2 講師を派遣	4
(4) 広大マスタース主催講演会（第 21 回、古澤修一講師）	5
3. 「2025 年度事業」のご案内	
(1) 2025 年度も広島大学の「平和教育」に参加します	6
(2) 2025 年度も東広島市民講座が始まります	7
4. 会員エッセイ	
市民講座「東広島を楽しくスケッチしよう」を牽引して	9
5. 会員情報	10
6. 追悼文	
太田 安英さんの逝去を悼む	10
西村 清巳先生のご逝去を悼む	11
原田 彰 先生のご逝去を悼む	12



広大マスタース総会・懇親会のご案内

下記のように、定例総会および懇親会を開催します。

ご参集いただきますようお願い致します。（上 真一）

~~~~~

2025 年度（第 20 回） 定例総会および懇親会

2025 年 6 月 7 日（土）

泉ホール（西条駅前 賀茂泉館 4 階）

東広島市西条本町 12-5 （TEL:082-424-2088）

~~~~~

第 1 部 総会 16：00～17：00 （開場 15：30）

次第

代表幹事挨拶／顧問挨拶

2024 年度事業活動報告

2024 年度会計報告・会計監査報告

2025 年度事業計画

2025 年度予算

新入会員の紹介 など

第 2 部 懇親会（新入会員歓迎会を兼ねる） 17：30～20：00

会費 5,000 円（1,500 円のアルコール及びノンアルコール類代金込み、
前半 90 分のみ飲み放題）

【追記】前年度に引き続き、泉ホールにおいて総会・懇親会を開催いたします。来賓の方にもご参加いただきます。4 月中旬頃参加申込みの案内をメール送信しますので、多くの会員がご参加いただきますようお願いいたします。

「2024 年度事業」の報告

(1) 2024 年度（令和6年度）の全ての事業・行事が終了しました

各行事・事業の詳細、議事録、報告レポートなどは、
 広大マスターズHPに記録してあります。ご参照ください。 （相田 美砂子）

	時期	事業・行事	開催場所
HM 行事 (総会)	6 月	第 19 回総会 6 月 1 日(土)	泉ホール
HM 行事 (講演会)	9 月	第 20 回マスターズ講演会「サイバー犯罪とサイバーセキュリティの法的責任」(講師：鳥谷部 茂) 9 月 14 日(土)	広島大学 ミライクリエ
HM 行事 (講演会)	2025 1 月	第 21 回マスターズ講演会 「釣りって何だろう? : 『釣りの科学』」(講師：古澤 修一) 2025 年 1 月 25 日(土)	くらら 研修室
HM 行事 (例会)	4 月	第 30 回例会 第 13 回マスターズ・ウォーキング大会 「広大キャンパス内「桜の花鑑賞コース」」2024 年 4 月 7 日(日)	広島大学東広 島キャンパス
HM 行事 (例会)	2025 3 月	第 31 回例会 第 14 回マスターズ・ウォーキング大会 「憩いの森公園」2025 年 3 月 23 日(日)	憩いの森公園
広島大学 (教養教育)	第 2 ターム	平和と人間 Aー環境と生物の未来へー (講義担当) 加藤範久, 鳥谷部 茂, 松田正典, 安藤忠男, 安藤忠男, 松田正彦, 岩田賢司, 岡本 祐子, 室岡義勝, 相田美砂子, 加藤範久, 青木孝夫, 上 真一, 古澤修一, 池田秀雄	広島大学
		平和と人間 Bー人間と文化の未来へー (講義担当) 池田秀雄, 青木孝夫, 鳥谷部 茂, 相田美砂子, 室岡義勝, 松田正典, 松田正彦, 岩 田賢司, 古澤修一, 原野 昇, 上 真一, 渡部和彦, 川崎信文, 加藤範久, 池田秀雄	
広島大学 (留学生教育)	夏期・ 冬期	広島大学「令和6年度日本語・日本文化特別研修」 夏期：「日本の絵画ー鳥獣戯画の世界」(講師：金田 晋), 「日本の伝統スポーツと礼ー武術か ら武道へー(剣道の技あり)」(講師：渡部和彦) 冬期：「日本の絵画ー鳥獣戯画の世界」(講師：金田 晋), 「日本の伝統スポーツと礼ー武術か ら武道へー(剣道の演技あり)」(講師：渡部和彦)	広島大学
東広島市 (市民講座)	通年	「東広島を楽しくスケッチしよう(河内町編)」(難波平人) 5 月 7 日(火), 14 日(火), 21 日 (火), 28 日(火); 作品展：くらら(市民ギャラリー) (7 月 3 日~8 日)	東広島市河内 地域センター
		「小学生のための実践的な将棋講座」(講師：早瀬光司) 8 月 3 日(木), 4 日(金), 10 日(木), 11 日(金)	市民文化セン ター研修室
		「国際語としての英語ー異文化コミュニケーションの落とし穴ー」(講師：谷本秀康) 8 月 10 日(土), 24 日(土), 31 日(土)	
		「自分史を中心とした広島大学の変遷と展望」(講師：白浜博幸) 10 月 5 日(土), 19 日(土), 10 月 26 日(土), 11 月 9 日(土)	
		「英語通訳・翻訳の視点からー異文化コミュニケーションの落とし穴ー」(講師：谷本秀康) 12 月 14 日(土), 21 日(土), 2025 年 1 月 11 日(土)	
東広島市 (出前講座) (通年)	通年	「健康寿命を延ばす食べ物ーサプリメントの選び方」(室岡 義勝) 2024 年 6 月 6 日(木) 榎原中央団地会館, 7 月 6 日(土) 昭和台団地集会所, 7 月 11 日(木) 市民協 働センター, 7 月 18 日(木) 御館グラウンド 2025 年 1 月 7 日(火) 豊栄支所, 1 月 18 日(月) 三つ城地域センター, 2 月 8 日(木) 造賀地域セ ンター, 2 月 18 日(火) 黒瀬保健福祉センター	(左記)
広島リカレン ト学院講座	通年	専門講座：英会話(三浦省五), 健康ウォーク(渡部和彦)	広島市内
		教養講座：難波 平人(南アフリカ 4 か国の旅ーモザンビーク・エスワティニ・レソト・南アフリ カ共和国ー), 相田 美砂子(科学(化学)的に正しい用語を使いましょうー『脱炭素』は正しい 用語ではありませんー), 金田 晋(絵を読む 2 ピカソ「ゲルニカ」をめぐるー), 沖村 雄二 (広島県の国定公園ーその自然ー), 室岡 義勝(バイオテクノロジーと AI が地球を救うーエネル ギー問題, 環境問題, 食糧問題, 生命倫理ー), 鳥谷部 茂(特殊詐欺の誘惑と恐怖ー若年成年へ の闇バイトと高齢者からの巧妙な預貯金等の詐欺ー), 安藤忠男(SDGs 各論② 水とエネルギーの確 保), 保坂 幸男(知的財産の話ー誰でもアイデアを財産にできますー), 高田 忠彦(タイヤのお 話ー繊維はこんな用途にも使われているー), 加藤 範久(隠れ栄養失調と病氣), 原野 昇(日本 の近代化とフランス), 川崎 信文(大部屋主義と個室主義ー日本の組織・職員管理の特質ー), 早瀬 光司(古今和歌集に親しむー古今集から恋の歌を選び、これを詠み解くー), 藤井 博信 (未来を見据えた自動車のゆくえーカーボンニュートラル社会を目指してー), 池田 秀雄(国際 協力と最近の世界情勢ー国際協力 経済開発 国際競争ー), 塚本 俊明(都市計画のはなしー広島 のまちづくりと都市計画), 渡部 和彦(中・高齢期の体力①姿勢・体幹・骨盤底筋), 牟田 泰三	
ちゅーピーカ ルチャーセン ター	前期・ 後期	前期：「水彩・油絵」(難波 平人), 「世界の近代美術を楽しく学ぶ」(金田 晋) 後期：「水彩・油絵」(難波 平人), 「美術を読むー19~20 世紀転換期の美術革命」(金田 晋)	東広島市内

（２）ちゅーピーカルチャーセンター講座に２講師派遣

広大マスタース幹事 金田 晋

2024 年度の後半も 2 講師派遣。

難波 平人 会員「水彩・油絵」（毎月第 2 金曜日）

金田 晋 会員「美術を読むー19～20 世紀転換期の美術革命」（毎月第 2・第 4 金曜日）

難波教室は受講者 8 名（2025 年 2 月 18 日現在）。受講者は教室で描いてきた作品を、今年も難波会員が主宰する「東広島を楽しくスケッチしよう」展（本 HM 通信 p.9「会員エッセイ」参照）に出展します。

金田教室は受講者 8 名（2025 年 2 月 18 日現在）。最近のテーマは 20 世紀美術の出発点を明確にすること。20 世紀初頭のアール・ヌーボーの運動を、パリ中心から、ロンドン、ウィーンへと枠を広げて講義しました。ウィーンのクリムトやドイツ・ミュンヘンアカデミーのカンディンスキーやクレーらの作品には反響がありました。

冬になると、両教室とも受講者が減少しました。年末から始まった大寒波の影響が大きい。1～3 月期は休みますと自己申告する受講者が何人かいました。春が待ち遠しい。

（３）2024 年度冬期日本語・日本文化特別研修に 2 講師を派遣

広大マスタース幹事 金田 晋

冬期は中国、非漢字圏の 2 クラスでした。非漢字圏 12 名（ベトナム 2 名、インドネシア 10 名）、中国クラスは今期も対面 45 名＋オンライン 12 名のハイブリッドでした。マスタースからは今期も講師 2 名を派遣しました。

金田晋会員「日本の絵画ー鳥獣戯画の世界」。今期も世界的に親しまれている日本の漫画、アニメを糸口にし、その源流として知られる 12 世紀の国宝「四大絵巻」の名場面を紹介しました。なかでも「鳥獣戯画」甲巻については、約 10 メートルの画卷を初めから順々に鑑賞し、あわせて日本美術の特質を学びました。今回は特に冒頭の荒涼たる冬景色の解説に力を入れました。

渡部和彦会員「日本の伝統スポーツと礼ー武術から武道へ（剣道の演技あり）」。柔道、剣道、空手道に通じる「道」を、日本文化の精神性の特質として講義しました。スポーツと礼の視点から、広大剣道部の学生の実演を交えながら、日本人の行動様式を説きました。

（４）第 21 回広大マスターズ主催講演会 『釣りって何だろう？：「釣りの科学」』 開催報告

広大マスターズ幹事 上 真一

標記の講演会が、2025 年 1 月 25 日（土）午後 3 時～午後 4 時 50 分、東広島芸術文化ホールくらら 208・209 研修室において、古澤修一広大マスターズ会員（広大名誉教授）により行われた。参加者は約 40 名であった。

講師の古澤会員の研究の専門分野はニワトリなどの鳥類免疫学であるが、今回は全く畑違いの釣りに関する講演であった。古澤会員にとって、釣りは人生の重要な部分を占めている。東京下町育ちの幼少時から釣りに親しみ、広大を定年退職後の現在は日本フライフィッシング協会会長を務めている。特筆すべきは、広大の現役教員であった時に、1・2 年生を対象とした教養教育科目の一つとして「釣りの科学」という講義を立ち上げたことである。この授業科目は広大の名物講義の一つとして、現在でも学生の人気は抜群に高い。



本講演では日本特有の釣りとして「アユ釣り」が紹介された。アユは日本の四季に適応した生活史、生態を持っており、初夏に河川に遡上した若アユは岩の表面に生える苔を餌として成長するので、餌場確保のために夏は縄張りを持ち、侵入アユを攻撃する。この性質を利用したのがアユの友釣りである。友釣り用の長さ約 8 メートルに及ぶ 3 種類（竹の繋ぎ竿、グラスファイバー竿、カーボンファイバー竿）の竿が紹介され、最新のカーボンファイバー竿の軽さを実感することができた。

多くの人々が釣りに魅了される理由は何だろう？その一つとして、古澤会員は「釣りによって教養が身に付き、生きる力が身に付くから」と強調する。幼少時・学生時代から釣りを始めた人は、（１）自然を尊ぶ意識、（２）環境・自然保護意識、（３）粘り強さ、辛抱する心、（４）自分で考える力、自立性、（５）臨機応変に対応する力、（６）ものを大切にする気持ち、などが相対的に強いとの調査結果（一般社団法人：日本さかな検定協会）を根拠にしている。だから「子どもの時から自然の中に飛び出して、大いに釣りを楽しみましょう」とのことであった。

講演後、参加者からの多くの質問があり、熱心な質疑応答が行われた。「良く釣りに行くが、最近ではタチウオ、タコ、メバルなどが釣れない。一方でチヌ、アイゴが増えた。」「近所の川ではかつては湧くように発生していた水生昆虫がいなくなり、魚も減った。」など、瀬戸内海や太田川、黒瀬川的环境悪化や生物減少などを危惧する多くのコメントがあった。これらの問題の根本には、地球規模での環境変化（温暖化）があり、防災に偏った改修工事が優先される河川行政がある。問題解決のための特効薬は存在しない。現下の状況で、どうすれば次世代に美しい自然を残し、釣りが楽しめる海や川を残し、持続可能な未来を残すことができるか。本講演会は、それらを考える良い機会を提供したのではないかと手前味噌的に総括する。



「2025 年度事業」のご案内

(1) 2025 年度（令和7年度）も広島大学の「平和教育」に参加します

広大マスタース幹事 池田 秀雄

広島大学では、2011 年度から平和科目（選択必修，2 単位）を開設しており、広大マスターズはこの平和科目群に、2025 年度も「平和と人間 A」、「平和と人間 B」の2 科目を提供します。

これらの2 科目は昨年と同様いずれも第2 ターム（6 月 10 日～7 月 29 日）の月曜日に開講されます。「平和と人間 A」が1・2 および3・4 時限、「平和と人間 B」が5・6 および7・8 時限の開講となります。本年度から、各1 コマずつ外部講師による被爆体験講話が新たに企画されました。

平和と人間 Aー環境と生物の未来へ（主担当：加藤範久）

- 第1 回 ガイダンス 授業の狙いと講師の紹介（加藤範久・元生物圏科学研究科）
- 第2 回 特殊詐欺の誘惑と恐怖（鳥谷部茂・元社会科学研究所）
- 第3 回 広島投下の原子爆弾の構造・威力・被害と放射線障害（松田正典・元生物圏科学研究科）
- 第4 回 地球環境・食糧問題への新たな潮流（室岡義勝・元工学部）
- 第5 回 絶海の孤島で起こった環境破壊と社会崩壊：モアイ像は何を見たか？
（上 真一・元生物圏科学研究科）
- 第6 回 資本主義経済の安定性と不安定性（松田正彦・元社会科学研究所）
- 第7 回 平和と国際政治（岩田賢司・元国際協力研究科）
- 第8 回 気づきにくい多様性（宮谷真人・元人間社会科学研究所）
- 第9 回 ゲノム工学と生命倫理（室岡義勝・元工学部）
- 第10 回 被爆体験講話
- 第11 回 貧困と栄養（加藤範久・元生物圏科学研究科）
- 第12 回 芸術を通して見る「平和／戦争と人間」について（青木孝夫・元総合科学研究科）
- 第13 回 貧困と健康：薬物依存がもたらす影響とその対策（斎藤祐見子・元統合生命科学研究科）
- 第14 回 貧困と感染症（古澤修一・元統合生命科学研究科）
- 第15 回 国際協力の過去と未来（池田秀雄・元国際協力研究科）

平和と人間 Bー人間と文化の未来へ（主担当：池田秀雄）

- 第1 回 ガイダンス 授業の狙いと講師の紹介（池田秀雄・元国際協力研究科）
- 第2 回 芸術を通して見る「平和／戦争と人間」について（青木孝夫・元総合科学研究科）
- 第3 回 特殊詐欺の誘惑と恐怖（鳥谷部茂・元社会科学研究所）
- 第4 回 貧困と健康：薬物依存がもたらす影響とその対策（斎藤祐見子・元統合生命科学研究科）
- 第5 回 貧困と感染症（古澤修一・元統合生命科学研究科）
- 第6 回 広島投下の原子爆弾の構造・威力・被害と放射線障害（松田正典・元生物圏科学研究科）
- 第7 回 資本主義経済の安定性と不安定性（松田正彦・元社会科学研究所）
- 第8 回 平和と国際政治（岩田賢司・元国際協力研究科）
- 第9 回 被爆体験講話
- 第10 回 戦争と記憶-比治山に眠るフランス兵士（原野 昇・元文学研究科）
- 第11 回 絶海の孤島で起こった環境破壊と社会崩壊：モアイ像は何を見たか？
（上 真一・元生物圏科学研究科）
- 第12 回 平和とスポーツの祭典・オリンピック（渡部和彦・元教育学研究科）
- 第13 回 国民国家とその争点：フランスを事例として（川崎信文・元社会科学研究所（法学部））
- 第14 回 バイオテクノロジーとAI が地球を救う（室岡義勝・元工学部）
- 第15 回 国際協力の過去と未来（池田秀雄・元国際協力研究科）

(2) 2025 年度も東広島市民講座が始まります

広大マスターズ幹事 三浦 省五

主催：東広島市教育委員会

共催：広島大学マスターズ

(1) 「東広島を楽しくスケッチしよう（黒瀬町編）」（講師：難波 平人）

概要：スケッチの際の構図の決め方、着彩の要領、空間や明暗表現などを研究しながら、風情のある黒瀬町の二ヶ所を楽しくスケッチします。雨天の時は生涯学習センター・大ホールで、各自の持参した写真を参考にして描きます。各自が道具を持参のこと。

開講時期：5月13日（火）・20日（火）・27日（火）・6月3日（火）（全4回）

いずれも 13：30～15：00

スケッチ場所：東広島市黒瀬生涯学習センター周辺

集合場所：東広島市黒瀬生涯学習センター 会議室A（黒瀬町菅田10 TEL:0823-82-1100）

募集人数：30名（抽選）

画材：スケッチブック6号以上、鉛筆2B程度、水彩道具一式（アクリル、油絵の具も可）等を持参して下さい。

(2) 「大規模災害と被災者支援」（講師：鳥谷部 茂）

概要：最近発生した能登半島地震被害の問題や今後発生が予想される南海トラフ大地震への防災・減災を考える。その問題の理解と防災・減災のために、

- ①鵜住居地区の奇跡と悲劇、
- ②大川小学校の防災・減災、
- ③応急・復興仮設住宅の問題（災害関連死等）、
- ④広島土砂災害と伝承館、

について解りやすく説明し、皆様と一緒に考える機会とします。

定員：40名（抽選）

開講時期：6月7日（土）・14日（土）・21日（土）・28日（土）いずれも13：30～15：00

会場：市民文化センター・研修室2

(3) 「小学生のための実践的な将棋講座」（講師：早瀬光司（日本将棋連盟：五段））

概要：①将棋対局時の「礼」について説明する。

②大盤を使用して将棋の「攻防」に関わる問題や「詰将棋」の問題を出し、解答させ、解説をする。

③各受講生の棋力に応じた「駒落ち」を設定して、講師が各受講生と多面指しを行う。

④可能であれば、各受講生同士で将棋を指させることも考慮・検討している。

趣旨：将棋を通して、受講生に「自分で考える」、「深く考える」ことが身に着く。

対象者：すべての回に参加でき、将棋の実戦経験が5～6回以上ある小学生

定員：10名以内（多数の場合は抽選による）

開講時期：7月31日（木）・8月1日（金）・7日（木）・8日（金）いずれも13：30～15：00

会場：市民文化センター・研修室3

(4) 「自分史を語る―学生運動・広島大学の統合移転・自身の研究歴など―」(講師：白浜 博幸)

概要：広島大学を定年退職し、その後2年間は教育研究推進員として大学で働いた。さらにその後、約4年ほど一般企業にて自身研究の実用化を進めていた。その間、小人閑居して不善をなすというか、自分史を振り返っていろいろなことを考えていた。

以下、これらのことについていくばくかを振り返ってみたい。

- ①激しかった学生運動と広島大学の対応、
- ②広島大学の統合移転に伴う戸惑い、
- ③自身の研究歴、
- ④自身の趣味・座右の銘などについて、

心に浮かぶまま語ってみたい。

定員：40名(抽選)

開講時期：10月4日(土)・19日(土)・26日(土)・11月9日(土)

いずれも10:30～12:00

会場：市民文化センター・研修室2

(5) 「交通事故の法律問題」(講師：鳥谷部 茂)

概要：東広島地区では死亡事故を含む重大事故が多数発生しています。

その予防と解決のために、

- ①東広島地区の重大事故から学ぶ、
- ②自転車の罰則強化の改正、
- ③電動キックボード等の事故、
- ④知られていない交通事故の紛争解決方法、

について解りやすく説明し、皆様と一緒に考える機会とします。

定員：40名(抽選)

開講時期：2026年2月7日(土)・14日(土)・21日(土)・28日(土)

いずれも13:30～15:00

会場：市民文化センター・研修室2

※問合せ・申込み先：東広島市教育文化振興事業団(電話 082-424-3811)

市民講座「東広島を楽しくスケッチしよう」を牽引して

広大マスターズ幹事 難波 平人

東広島市は1974年賀茂郡西条町、八本松町、志和町、高屋町の4町合併で誕生した。さらに2005年同郡黒瀬町、福富町、豊栄町、安芸津町が加わり、9町で人口は19万人を超える大きな市へと発展している。

私は1983年に広島大学の移転に伴い広島市から東広島市に転入してきた。既に42年の歳月が過ぎている。最初は寒さが気になったが、今では豊かな自然と人に恵まれ、第二の故郷となっている。この地を誇りに思い、終焉の地と決めている。しかし東広島市の圏域は大変広く、各町の実状をあまり知らないことに気付き、市民の方々とともにスケッチをして巡り自然の美しさや歴史を知り、その地域の人々と交流したいと思った。絵の指導をしながら、全市をスケッチして巡ることにした。その過程で自然や歴史の奥深さを感じ、その土地に共鳴できると思っている。

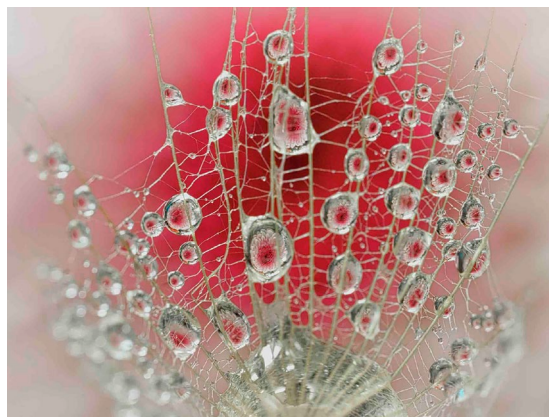
そのように考え、東広島市教育委員会が主催する東広島市市民講座(事業委託先:東広島市教育文化振興財団)に、12年前から広島大学マスターズ共催で「東広島を楽しくスケッチしよう」(講師:難波平人)という講座を開いている。

「絵を描くことで対象物をよく観察し東広島市の魅力を再確認しよう」の主旨のもと、参加者は毎年、指定の町の地域センター等に集合し、その周辺の風景を描く。各自で2点の作品(水彩画、アクリル画、油彩画等)を完成させる。これらの成果は東広島芸術文化ホール くらら市民ギャラリーでの展覧会(広島大学マスターズ主催)で発表され、市民に公開されてきた(毎年、出品者は30数人)。

講座は2013年の西条町をスタートに、安芸津町(2017)、志和町(2019)、高屋町(2021)、福富町(2022)、豊栄町(2023)、河内町(2024)と続け、今年は黒瀬町、来年の八本松町で完結する。途中2020年はコロナの影響で休止した。12年にわたる活動となる。

講座が終結したら、「市民が描いた東ひろしま」のタイトルでスケッチ参加者全員の作品を画集として出版し、東広島の魅力を伝えたいと思っている。各町の歴史と文化に関する文章も加えて、ぜひ実現したい。

最後に、この10年以上に及ぶ企画にご協力いただいている東広島市教育文化振興事業団と広島大学マスターズに感謝申し上げます。



会員情報

広大マスターズ幹事 岩田 賢司

新入会員について

2024 年度(9 月以降)に下記 2 名の新入会がありました (50 音順)。

- ・斎藤 祐見子 氏 (元統合生命科学研究科・総合科学部 2022 年退職)
- ・宮谷 真人 氏 (元人間社会科学研究科・教育学部 2023 年退職)

訃報

下記の会員の訃報が寄せられました (50 音順)。謹んでご冥福をお祈りいたします。

太田 安英 会員 (元幹事) (生物圏科学研究科 2001 年退職) 2024 年 11 月 24 日ご逝去
西村 清巳 会員 (教育学研究科 2002 年退職) 2024 年 11 月 30 日ご逝去
原田 彰 会員 (教育学研究科 2001 年退職) 2024 年 10 月 3 日ご逝去

追悼文

太田 安英さんの逝去を悼む

広大マスターズ会員 池上 晋

太田安英氏は 1960 年 3 月に東京大学農学部農芸化学科を卒業された。山田浩一教授が主宰されておられた微生物利用学講座で卒業論文研究を行い、卒業後は大学院に進学された。大学院修了後はそのまま山田先生の研究室で助手に任命され、微生物利用学の研究を行うとともに学生の卒業論文指導補助を担当された。太田氏と私は同じ農芸化学の研究領域で教育・研究活動を行なったものの、互いにかなりかけ離れた研究内容なので、同氏の研究については全く知らない。

1987 年、太田氏と私は同時に広島大学助教授に昇任した。太田氏は 2001 年 3 月退官されるまで食品生化学の講義を担当された。太田氏の最終講義は小生が司会を担当したので、その内容を大講義室の最前列で伺うことができたが、実験データの数学的处理について大変分かりやすい、実験科学者にとって分野を超えて有益な講義であった。

太田氏は物静かな人であったが、話してみると大変頭の良い方で話に無駄がなく、楽しく会話を楽しめた。退職後は花の栽培を趣味とされていた。本年 11 月 24 日、ご自宅で倒れられ、市内の病院に急送され、手当を施されたがその功なく亡くなられた。享年 87 歳。

西村清巳先生のご逝去を悼む

広大マスターズ幹事 上 真一

広島大学福山キャンパスには、かつて水畜産学部（現生物生産学部）と教育学部福山分校の2部局が同居していた。1971年、私が水畜産学部での学生生活を始めた時、西村先生は教育学部体育学科の若手助手で、国体バレーボールの広島県代表選手でもあった。バレーボール選手としては完璧な体格を誇り、色黒で、笑うと両目尻が下がる優しい顔になり、気さくで、話しは面白くて、憧れの先生だった。

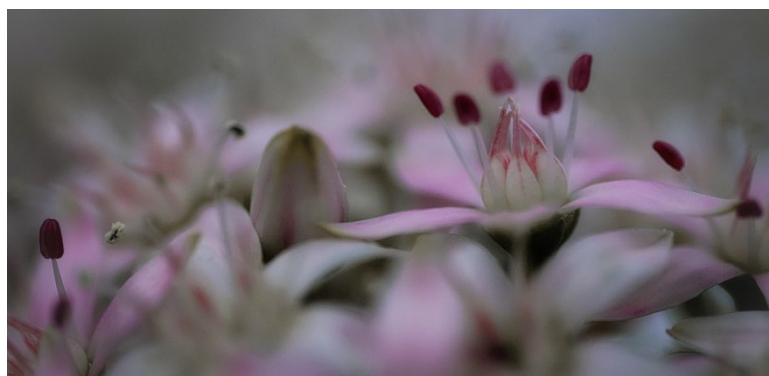
1978年、私は母校の助手に採用され、再び福山キャンパスに戻った。その頃、西村先生はバレーボールの選手生命を絶たれるアキレス腱の断裂に見舞われた。そのリハビリは、大学キャンパスから芦田川対岸の妙見神社までの片道約3キロを、ほぼ毎日徒歩で、ある程度回復した後はジョギングで、往復することであった。私もトレーニングを兼ねて先生に同行したことがある。神社詣千回記念日までに、先生の脚力は相当に回復されていた。

キャンパス統合移転計画により、生物生産学部は1988年に、福山分校は1989年に、東広島に移転した。西村先生の日常鍛錬は変わらなかった。西高屋の自宅から大学キャンパスまでの片道約12キロを、定年退職まで14年間、自転車で通勤されておられた。ブルバールを自家用車で通勤していた私は、側道をひた走る先生の姿をしばしばお見かけした。

西村先生は野外教育の専門家でもあった。先生が学生部長だった1995年1月17日、神戸・淡路大震災が発生した。当時の原田学長は直ちに医療関係者や学生ボランティアを含む救援隊を組織し、生物生産学部練習船「豊潮丸」に救援物資を満載して、1月23日呉基地を出港した。この救援活動はその後の災害救助などを目的としたボランティア活動の嚆矢となった。西村先生は隊長として現地での救援活動を指揮され、特に大釜を用いた炊き出しには野外教育専門家としての経験を発揮された。

2002年3月に広島大学を定年退職された後、西村先生は庄原市にあるNPO法人七塚原自然体験活動研究センターの代表者になられた。スポーツマンとして日々の鍛錬を欠かさなかった先生にとって、最近の子どもたちの体力低下は心配事だった。子どもたちが自然に親しみながら、環境負荷をかけない集団生活を送りながら、体力作りができる機会をセンターで提供しておられた。野外教育専門家として自然の中で子どもたちと接する日々は、きっと充実した時間だったろうと推察する。先生がいつまでセンターにおられたのか、私はその情報を持ち合わせない。

2019年8月、私は不整脈の診察のために東広島医療センターに行った。その時、廊下でばったり入院中の西村先生にお会いした。「心臓弁の具合が悪く、ブタの弁を移植してもらいました」とおっしゃった。これが先生にお会いした最後だった。2024年11月30日に先生の心臓が停止するまで、この弁は正常に機能していたと祈りたい。享年86歳。全身にトトロの雰囲気を漂わせる先生だった。今、先生の魂はトトロになって県北の森で遊んでいるに違いない。



原田彰先生のご逝去を悼む

広大マスターズ幹事 金田 晋

昨年 10 月 3 日原田彰先生がご逝去されました。享年 87 歳。

先生は 2001 年広島大学を定年退官され（広島大学名誉教授）、併せて日本教育学会理事、日本教育社会学会理事も退かれましたが、ご自身創設を発起された日本子ども社会学会（1995 年発足）にはその後も活躍され、会長も務められました（2003－2007 年）。その多忙な時期に、発足したばかりのわが広大マスターズに力を尽くされました。

当時、私たちは「子どもを元気に」をテーマに、東広島市教育委員会と組んで地域における学校・社会教育の方面の活性化に努めていました。その相談の場に原田先生はいく度も出席されました。特に子ども社会学会が提唱して始まった文科省事業「放課後子ども教室」を本市に定着させることに尽力されました。「ワークショップ・子どもの放課後を考える」（2009 年）はその成果の一端です（「HM 通信」14 号、「HM マスターズ 10 年の歩み」参照）。先生は行政や学校の管理者の視点からでなく、そこで学ぶ子どもの立場から考えることの重要性を説かれました。

これは先生の一貫した姿勢でありました。広大教育学部でデュルケム社会学を学ばれ（教育学博士）、その後同志社大学、徳島大学等を経て広島大学に戻られ、教育社会学を担当されました。多方面のご活躍の中心に当時学校教育界を揺るがした同和教育、人権教育がありました。先生は子どもの視点を大切にし、子どもが成長してゆくには教育はどうあるべきかを、提言し続けました。ふだんは笑顔を絶やさない端正なお顔で、声を荒げられることはありませんでした。合掌。

【広島大学マスターズ事務局】

（郵便物宛先）〒739-8601 東広島市西条栄町 8-29

東広島市市民協働センター内 メールボックス No.5 「広大マスターズ」

E メール：masters@hiroshima-u.ac.jp

独自 HP URL：https://masters.hiroshima-u.ac.jp

